

小杉駅周辺地区小学校整備事業の進捗状況について

〈事案の背景、経緯〉

- ・平成21年11月：「児童生徒の増加に対応した教育環境整備の基本的な考え方と当面の対応策について」策定（小杉駅周辺地区については、「新校設置の可能性も含め対応策を検討」と位置づけ）
- ・平成22年5月：政策・調整会議にて「小杉駅周辺地区における新校設置に関する基本合意について」を決定し、日本医科大学と基本合意書締結
- ・平成23年9月：政策・調整会議にて「小杉駅周辺地区における小学校新設に向けた協定の締結について」を決定し、日本医科大学と協定書締結
- ・平成24年3月：小杉駅周辺地区小学校新設基本調査
- ・平成25年3月：小杉駅周辺地区小学校新設基本構想策定

〈報告内容〉

小杉駅北側地区の再開発事業が計画されていることから、小杉駅周辺地区の小学校における良好な教育環境の確保のため、小杉駅周辺地区小学校新設基本計画（案）を策定した。

●開校予定時期

平成31年度

※現時点における最短のスケジュールであり、開発動向を踏まえ、今後調整する可能性がある。

●学校づくりの基本理念

「地域とのつながりの中で、将来の川崎の担い手を育む温かな学校」

●基本コンセプト

- 1 子供たちが豊かに学び表現できる学校
- 2 地域コミュニティの拠点となる学校
- 3 安心して安全な学校
- 4 環境を考え、環境を学ぶ学校

●主な基本方針

- (1) 配置計画
 - ・自然通風や自然採光及び近隣環境に配慮した配置、形状とする
 - ・災害時に日本医科大学と連携が可能な計画とする
 - ・接道箇所は歩道上空地を設けて、小杉地区のまちづくりと一体化を図る
- (2) 平面計画
 - ・地域開放や避難所運営における区画分けが可能となる計画とする
- (3) 計画諸室
 - ・川崎市立学校の適正規模の考え方より、普通教室は18学級とするが、一時的な児童増加による学級増（30学級）に対応できる計画とする

〈添付資料〉

資料1 小杉駅周辺地区小学校新設基本計画報告書（案） 概要版

資料2 配置・平面ゾーニング計画のイメージ（案）

小杉駅周辺地区小学校新設基本計画報告書（案）（概要版）

本報告書は、小杉駅周辺地区小学校新設基本計画策定について、経緯と検討結果をまとめたものである。
近年、**武蔵小杉駅周辺では、大規模かつ複数の集合住宅の建設により市外からの人口流入が続いており、今後、小杉駅北側地区などの再開発事業も計画されていることなどから、更なる児童の増加が見込まれている。このような状況を受け、小杉駅周辺地区小学校における良好な教育環境の確保のため、小学校を新設することとなった。**

小学校新設に向け、基本計画検討委員会を組織し、より良い教育環境の実現や地域との連携などについて議論を重ね、本基本計画を策定した。

■協定締結の経緯

◇日本医科大学との協定に至る経緯

川崎市と学校法人日本医科大学は、小杉駅周辺地区の大規模かつ複数の共同住宅の建設による児童の増加に対応するため、**平成22年5月に義務教育施設の設置に向け相互に協力する旨の基本合意を締結し、平成23年10月3日に、学校の新設に向けた取組を推進するため、基本合意の細目に係る事項について協定を締結した。**

◇協定の内容

- 学校予定地：中原区小杉町二丁目 295 番 1 他
現 日本医科大学新丸子校舎所在地の一部
- 面積：約 10,010 m²（歩道状空地約 1290 m²含む）
- 契約形態：事業用定期借地権（平成 27 年 4 月 1 日～平成 60 年 3 月 31 日（33 年間））
- 開校予定：平成 29 年度

■基本計画策定時における計画スケジュール（予定）

年度	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31
新校 (用地)	基本 合意	協定 締結			鑑定、契約、定借開始					
新校 (工事)			基本 構想	基本 計画	基本 設計	実施 設計	建設 工事			開校 (予定)

※上記スケジュールは、現時点における最短のスケジュールであり、開発動向を踏まえ、今後調整する可能性がある。

■敷地概要

所在地：神奈川県川崎市中原区小杉町二丁目 295 番 1 他
敷地面積：約 10,010 m²
（歩道状空地面積：約 1,290 m²を含む※幅 4m で想定）
用途地域：第一種住居地域
容積率：200%
建ぺい率：60%→角地緩和で 70%
接道：南 幹線道路 小杉町 28 号線 6.30m
東 一般市道 小杉町 3 号線 6.70～10.70m
西 一般市道 小杉町 2 号線 5.40～7.00m
防火指定：準防火地域
高さ制限：第 3 種高度地区
⇒最高高さ：20m、北側制限：10m+1.25/1
日影規制：4h-2.5h/4m



■小杉駅周辺地区の開発状況

小杉駅周辺地区では、JR南武線の南側を中心としたまちづくりが進むと同時に、JR南武線の北側地区を中心とした新たな再開発計画なども明らかになっている。

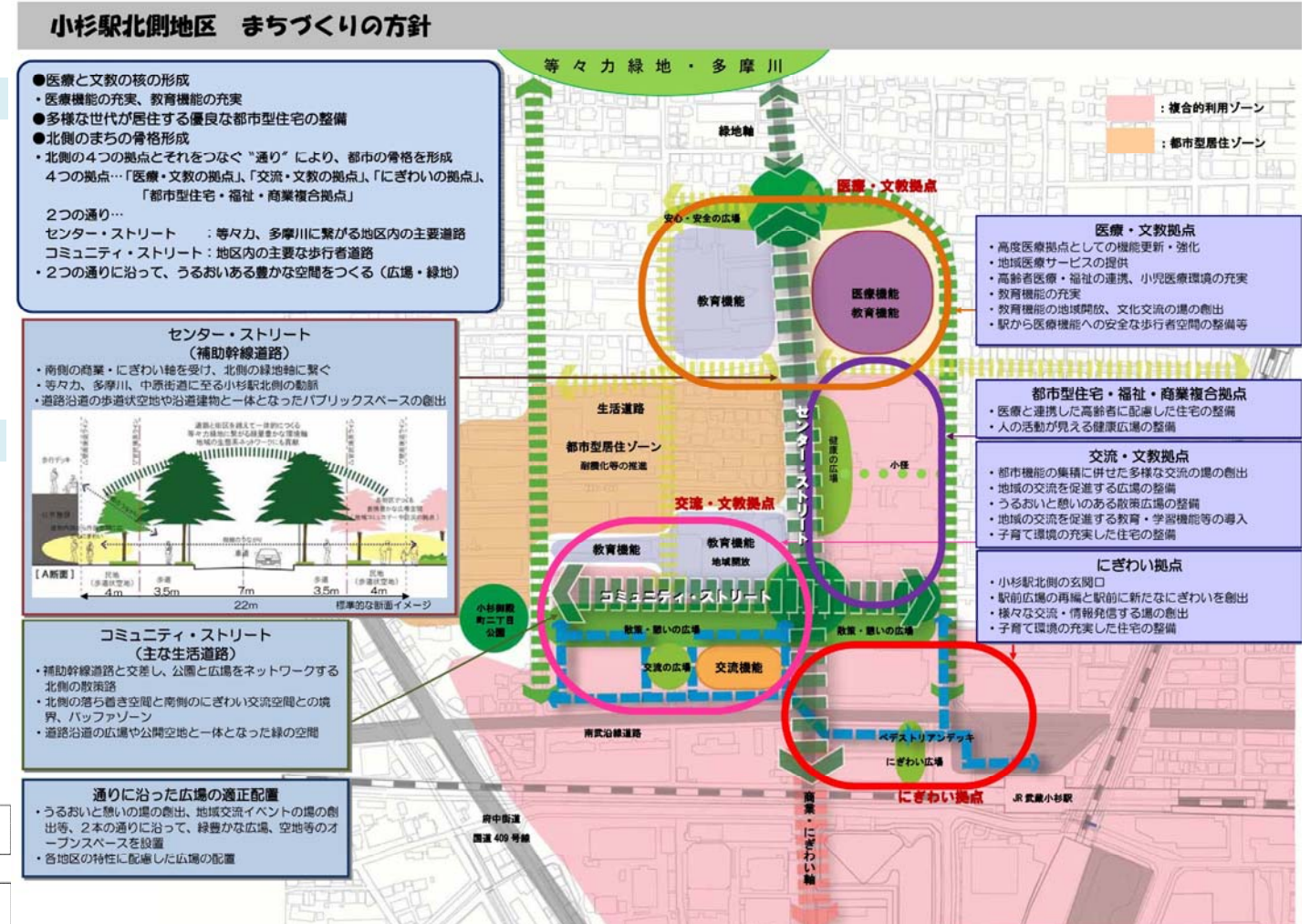
本計画地が位置する小杉駅北側地区は、駅北口の駅前広場を中心とした「にぎわい拠点」、計画中のコンベンション施設・都市型住宅や大西学園からなる「交流・文教拠点」、現日本医科大学武蔵小杉病院の跡地に計画中の「都市型住宅・福祉・商業複合拠点」、本計画の小学校と日本医科大学グラウンドの跡地に計画中の病院・教育施設からなる「医療・文教拠点」の拠点と、それらをつなぐ2つの通り（センター・ストリート、コミュニティ・ストリート）を骨格にまちづくりが進められている。

また、東急武蔵小杉駅の西側には「読書のまち・かわさき」の拠点となる新中原図書館が開館し、「市民・地域・学校・大学・企業との協働」を目指し、学校図書館との連携や読書ボランティア育成の推進などが検討されている。

北側地区に計画中の各施設が災害時に担う機能としては、コンベンション施設が地域住民や帰宅困難者の一時的な受け入れ、日本医科大学武蔵小杉病院が要介護者の受け入れ、本計画の小学校は、避難者の受け入れをすると同時に、災害時には、病院との連携を行うものとして想定がされている。

下に、小杉駅北側地区のまちづくりの方針、次項に小杉駅周辺地区小学校（上丸子小、西丸子小、中原小、下沼部小、東住吉小、今井小）の分布と小杉駅周辺地区の主な集合住宅の開発状況を示す。

大規模な集合住宅の建設や駅周辺の再開発に伴い、「子育て世代」の人口流入が続いており、児童数は増加傾向にある。



小杉駅周辺地区における児童増加への対応

※平成30年度においても現在の教室数で対応可能

■西丸子小学校
児童数 524名
普通学級 18学級
* 南武線北側の再開発

年度	26	27	28	29	30	31
児童数	520	517	515	607	651	689
学級数	18	18	16	20	20	21

◎小学校予定地(小杉町2-295-1)
* 現日医大新丸子校舎の一部
* H22 日医大と基本合意 → H23 協定の締結

【凡例】

- 小学校区
- 中学校区
- 入居済み・入居開始の集合住宅(100戸超)
- 今後、開発が予定されている集合住宅

■中原小学校
児童数 639名
普通学級 20学級

■今井小学校
児童数 868名
普通学級 26学級
* 今井地区の住宅開発
* 小杉町3丁目地区の再開発計画
↓
H23 校舎増築を行う。

■東住吉小学校
児童数 474名
普通学級 15学級
* 東京機械跡の再開発等

■下沼部小学校
児童数 617名
普通学級 20学級
* 中丸子地区の再開発等
↓
H24 校舎増築を行う。

○児童数・学級数は平成25年5月1日時点の数値。
○集合住宅の名称等の情報は、教育委員会総務部企画課の調査による。

平成25年11月

【川崎市の承認を得て同市発行のデジタル地形図を使用したものです。承認番号：川崎市指令第162号】

■基本理念・基本コンセプト

基本計画では、新たに開校する新校の学校像について議論を行ってきた。その議論を通して、今後、具体的な諸計画の議論・検討が行われる際の基礎となるべき、学校づくりの「基本理念」と「基本コンセプト」を以下の通り設定した。

学校づくりの基本理念

「地域とのつながりの中で、将来の川崎の担い手を育む温かな学校」

グローバル化の進展で世界全体が急速に変化している今、思考・判断しながら様々な困難な場面を乗り越える生きる力が求められる。一方、少子高齢化の急速な進展でローカルな視点での温かな町をどのように創るかを考える人材育成も急務である。温もりのある空間や人材のもとで健やかに育ち、将来の川崎を担う子どもたちの育成をめざす。

子どもを取り巻く地域環境 <強みを生かす>

- ・地域のつながりが強く、町のみんが支え合って生きていく雰囲気がある。
- ・等々力緑地、多摩川、中原街道などの地域環境を生かして体験活動を行うことができる。



<学校で育てていきたい資質・能力>

- ア 学ぶことや働くこと、生きることの尊さを実感し、**主体的に学ぶ意欲**
- イ 自己の役割を果たしつつ、**他者と協力・協働して積極的に社会を形成する態度**
- ウ 自らの夢や志をもち、**地域を愛し、社会に貢献していこうとする心情**

基本コンセプト

1 子どもたちが豊かに学び表現できる学校

～多様な学習活動や体験活動を生み出し、支える空間づくり～

- (1) 子どもたちが自分の思いを自由に発信できる学校：ア
- (2) 子どもたちが身体全体を使って主体的に活動できる学校：ア
- (3) 子どもたちの歌声や演奏が響く明るい学校：ウ

2 地域コミュニティの拠点となる学校

～地域に開かれ、地域との連携や交流を生む学校～

- (1) 地域、保護者、学校が連携した、地域に開かれた学校：ウ
- (2) 地域に加わる新しい世帯と、地域に育った世帯との交流の場となる学校：イ、ウ
- (3) 近隣施設との連携や異校種間連携による交流を行う学校：イ

3 安心で安全な学校

～日常の利用と共に、災害時の利用にも配慮した施設づくり～

- (1) 避難所としての防災機能を備えた学校：ア
- (2) 子どもたちが安心して快適に過ごせる学校：イ
- (3) 誰もが使いやすい学校：ウ

4 環境を考え、環境を学ぶ学校

～自然エネルギーを活用し、環境教育の場となる施設づくり～

- (1) 緑豊かな潤いあふれる学校：イ
- (2) 自然エネルギーを活用した環境にやさしい学校：ア
- (3) まちとの調和や地域資源を生かした環境学習に取り組む学校：ア

ア・イ・ウ：学校で育てていきたい資質・能力の分類



■基本方針

(1)配置計画

- ・近隣建物による日影の影響に配慮し、校舎やグラウンドの配置を検討する。
- ・**自然通風や自然採光に配慮した配置、形状とする。**
- ・グラウンドは、運動種目に必要な寸法・形状を確保し、同時利用の安全性にも配慮する。
- ・避難所として十分な防災機能を発揮することのできる配置とする。
- ・**災害時に、日本医科大学武蔵小杉病院と連携が可能な計画とする。具体的には、病院外でトリアージをする必要が生じた場合に、小学校においてトリアージスペースを確保することから、屋外にテント(2～3張り)を設置できるスペースを確保する。**
- ・周辺の住宅地への騒音や砂埃などの影響に配慮する。
- ・**接道箇所に歩道状空地を設けて、小杉地区のまちづくりと一体化を図る。**

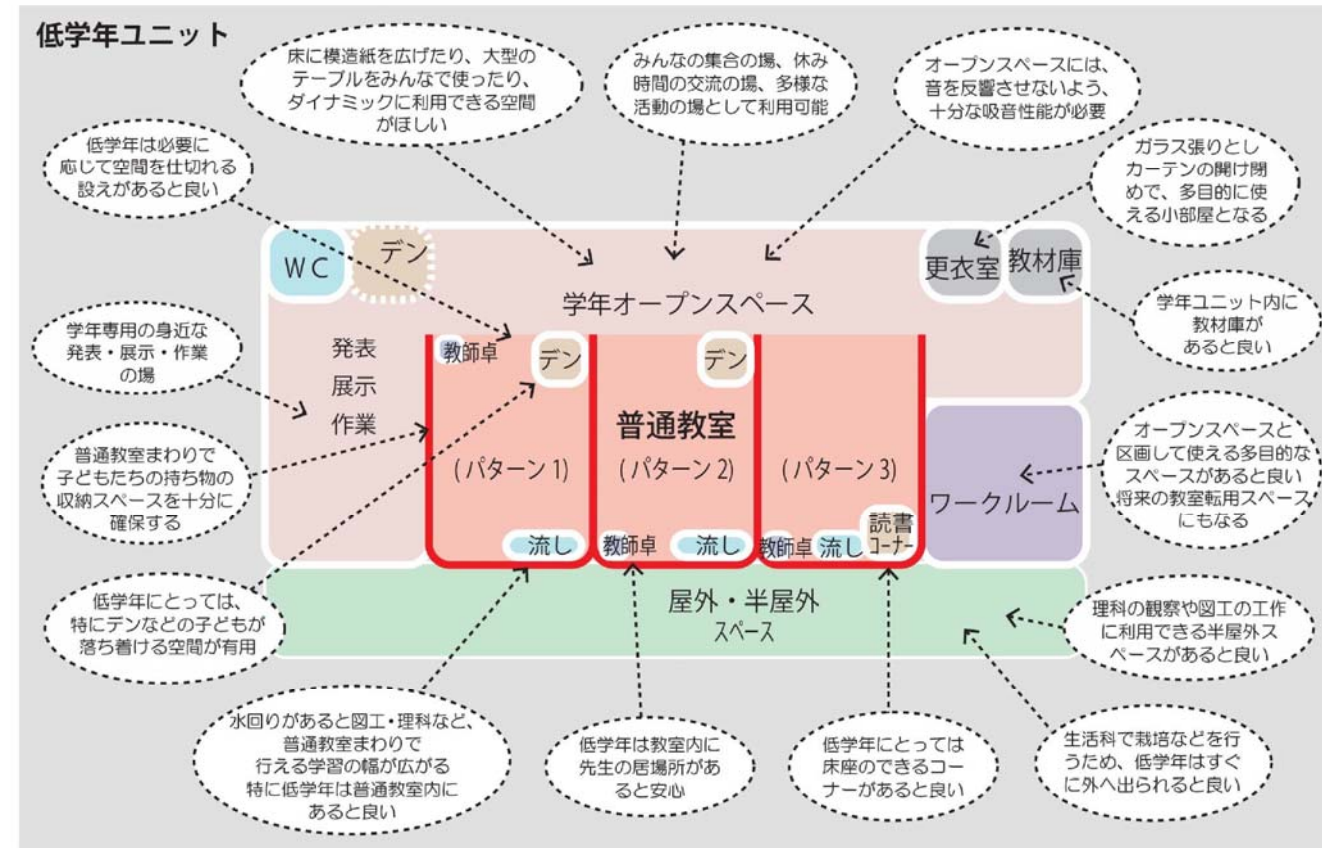
(2)平面計画

- ・**地域開放や避難所運営時に、容易にセキュリティ区画が可能な計画とする。**
 - ・児童数が増加した場合は、各学年スペースまわりで学級数を増設できるよう配慮し、充実した特別教室を維持できる計画とする。
 - ・通学動線、管理者動線、給食などのサービス動線ができる限り交錯しない計画とする。
 - ・普通教室は学年のまとまりを持った配置とし、多様な活動や学習を可能にする空間構成とする。
 - ・特別教室は、関連ある科目を集約して配置し、一体利用や多目的利用に対応できる計画とする。
- ### (3)計画諸室
- ・**川崎市立学校における適正規模の考え方より、普通教室は18学級とする。一時的に児童数が増加した場合には、30学級までを許容できる計画とする。**
 - ・施設の有効活用や地域連携の観点から、プールは西丸子小学校のプールを共同利用する方向で検討を行う。

■普通教室

- ◇多様な活動を可能にする空間・学年のまとまりと、多様な活動や学習に応じた空間構成 など
- ◇子どもたちが安心して過ごせる生活の場・デン（小空間）、教師コーナー、木材利用 など
- ◇学習活動を支える機能・設備の確保・流し台、更衣室、掲示板、観察台、展示台、収納空間、ICT など

・普通教室まわり（低学年）の機能構成イメージ



■特別支援教室

- ・障害の状態や特性に応じ、各教科活動や障害の改善・克服など、多様な学習活動を行える室構成とする。
- ・障害特性に応じたユニバーサルな教育環境を整備する。
- ・原則として1階に配置し、屋外に出やすい計画とする。
- ・保健室や管理諸室との連携が容易な配置とする。
- ・普通学級の児童との交流が生まれる位置に配置する。
- ・「特別支援学校施設整備指針」に準じ、「川崎市特別支援教育推進計画」に則った計画とする。



(沖縄市立美原小学校)

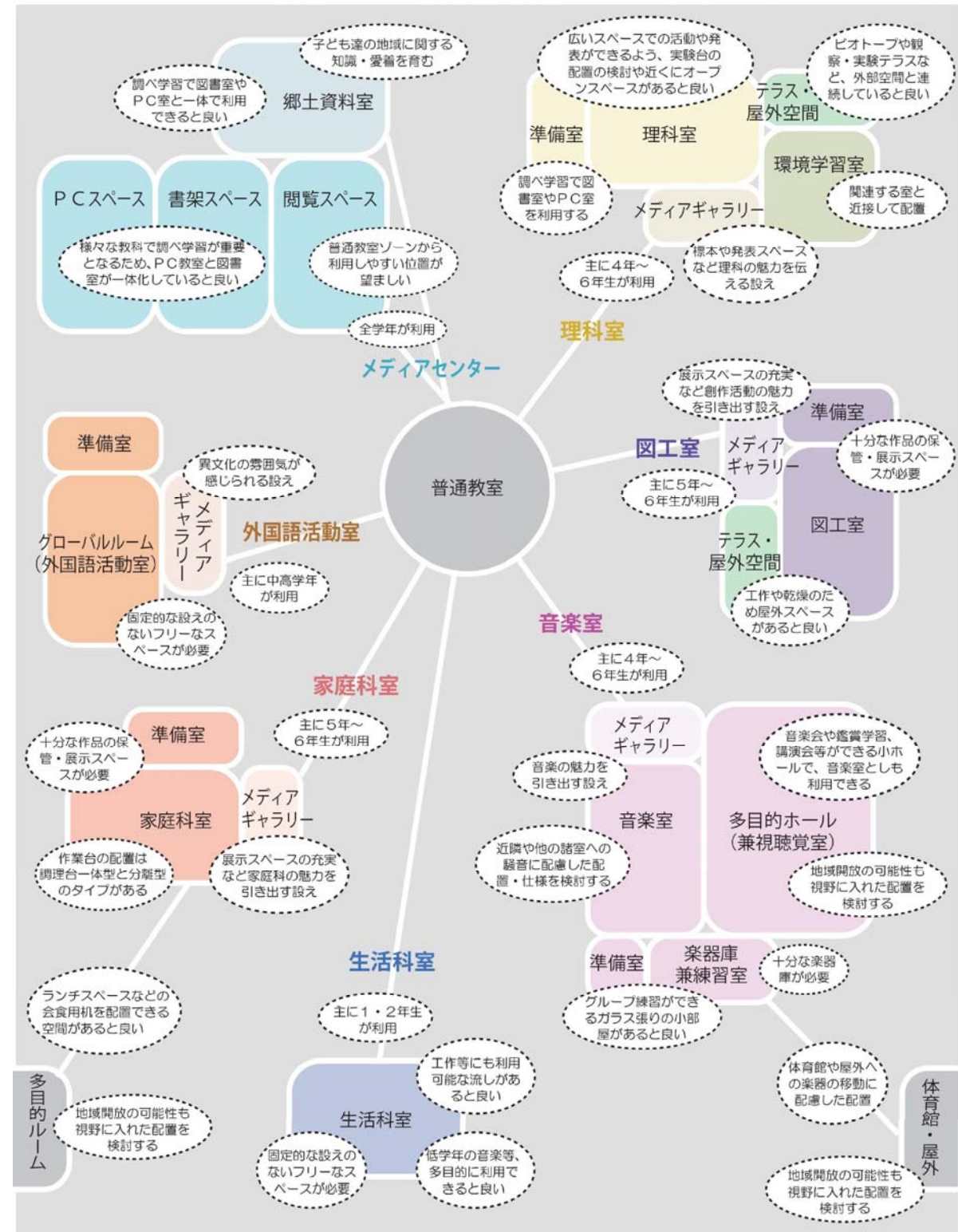


(川崎市立御幸小学校)

■特別教室

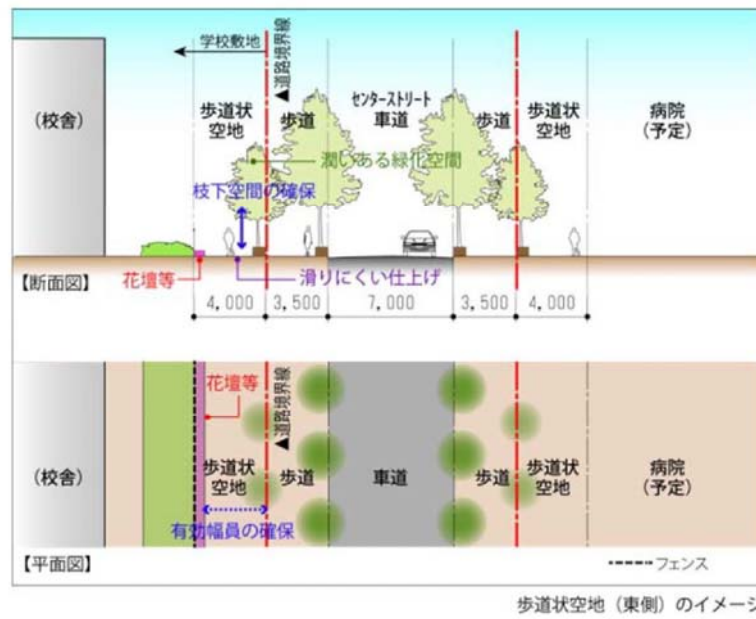
- ◇利用学年や利用形態を考慮した利便性の高い配置・普通教室との動線、屋外施設との連携 など
- ◇関連科目の集約配置による一体利用、設備や性能に応じた多目的利用・ゾーン編成、メディアセンターなど
- ◇地域との連携に配慮した機能、配置・地域開放諸室の種類と配置、環境学習室、郷土資料室 など

・特別教室まわりの機能構成イメージ



■歩道状空地

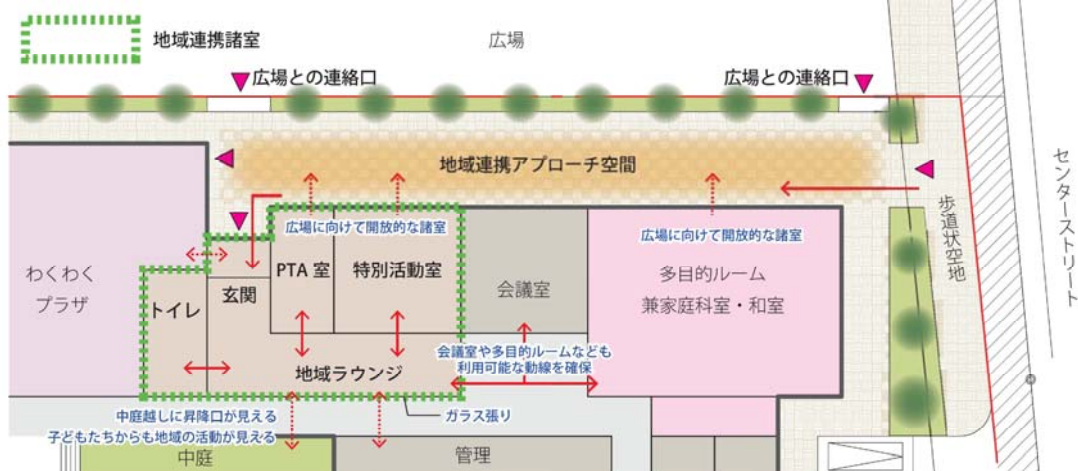
- ◇周辺と調和した街並みづくり・・センターストリートを軸とした周辺街区との調和を図る
- ◇安全な歩行空間・・有効幅員・枝下空間の確保、バリアフリー、滑りにくい仕上げ など
- ◇潤いと憩いの緑化空間・・道路と歩道状空地の一体的な整備による潤いある緑化空間、地域との交流や学習に資する花壇などの設置を検討



■地域連携諸室

- ・独立した運用が可能となるよう専用の玄関を設け、敷地外部からアクセス容易な計画とする。
- ・地域の活動団体と児童や教員の間自然と交流が生まれる計画とする。
- ・他の施設開放諸室との連携に配慮する。
- ・広場との一体的な利用を可能にする連絡口を計画する

- ・地域連携諸室の配置イメージ



■運動スペース

- ◇教科体育からその他学習、各種行事など、様々な活動を可能とする計画
- ・・複数学年の同時利用に配慮したスペース、附属施設の一体的な配置、環境性能確保 など
- ◇地域開放や近隣への影響に配慮した計画
- ・・他諸室との明確なゾーン区分、バリアフリー、近隣への砂埃や騒音防止対策 など
- ◇避難所としての利用に配慮した配置・設備計画
- ・・災害時にも利用可能な設備システム、トリアージスペース、グラウンドとアリーナの連携 など

- ・必要機能

①グラウンド

遊具(ジャングルジム・雲梯・肋木・のぼり棒・滑り台など)、砂場、130mトラック、50m直線路、バスケットリング(可動式)、体育倉庫、石灰倉庫、トイレ、ピロティなど

②アリーナ

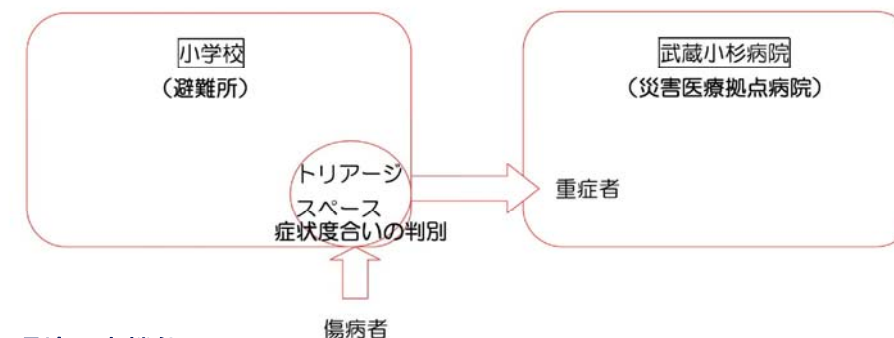
コートライン(バスケット1面・ミニバスケット2面・バドミントン3面・バレーボール1面以上)、ステージ、体育倉庫、トイレ、ランニングスペース、中2階、更衣室 など



■防災機能

- ・避難動線を最短化するため、グラウンド(一時避難)と体育館(避難所)の位置関係に留意する。
- ・学校機能再開期には、避難所機能と両立が可能となるよう、明確なゾーニングを行う。
- ・エネルギー途絶時にも一定の室内環境を維持するため、屋根・外壁・床などの断熱化を図ると共に、自然エネルギーを利用したシステムの導入について検討する。
- ・日本医科大学武蔵小杉病院との連携に配慮し、災害時にトリアージスペースとして使用できるピロティなどの空間を設ける。

■小学校と病院の連携イメージ



■環境配慮機能

- ・環境負荷の低減と、快適な室内環境実現の両立を図る。
- ・地域特性や周辺の環境を踏まえ、本計画地において効果的な機能を整備する。
- ・学習に資する機能の整備と、効果的な設置方法・設置場所などの検討を行う。
- ・平常時だけでなく、災害時にも有効な機能を整備する。

■配置・平面ゾーニング計画イメージ(案)

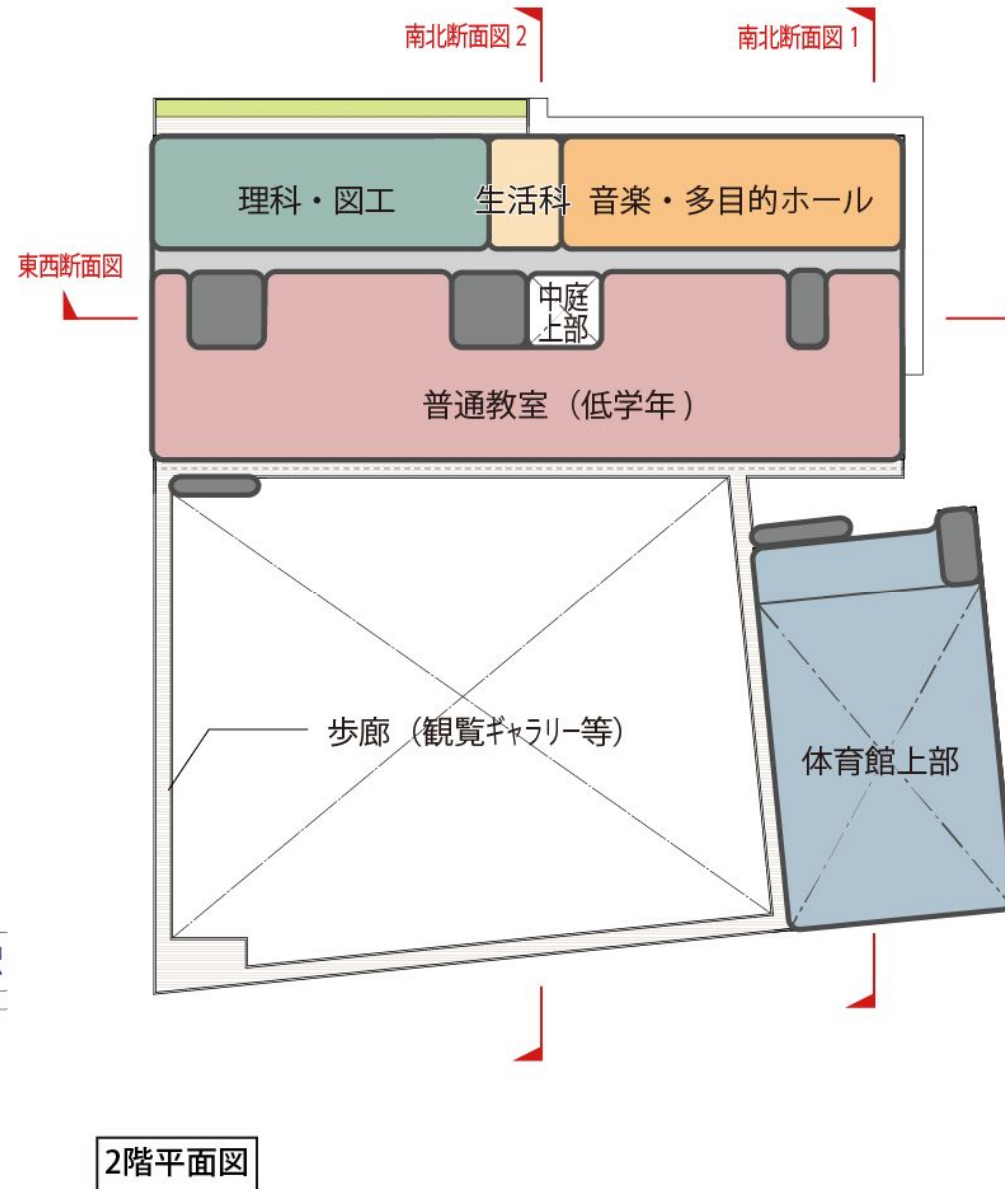
模型写真2



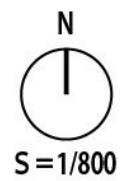
模型写真1

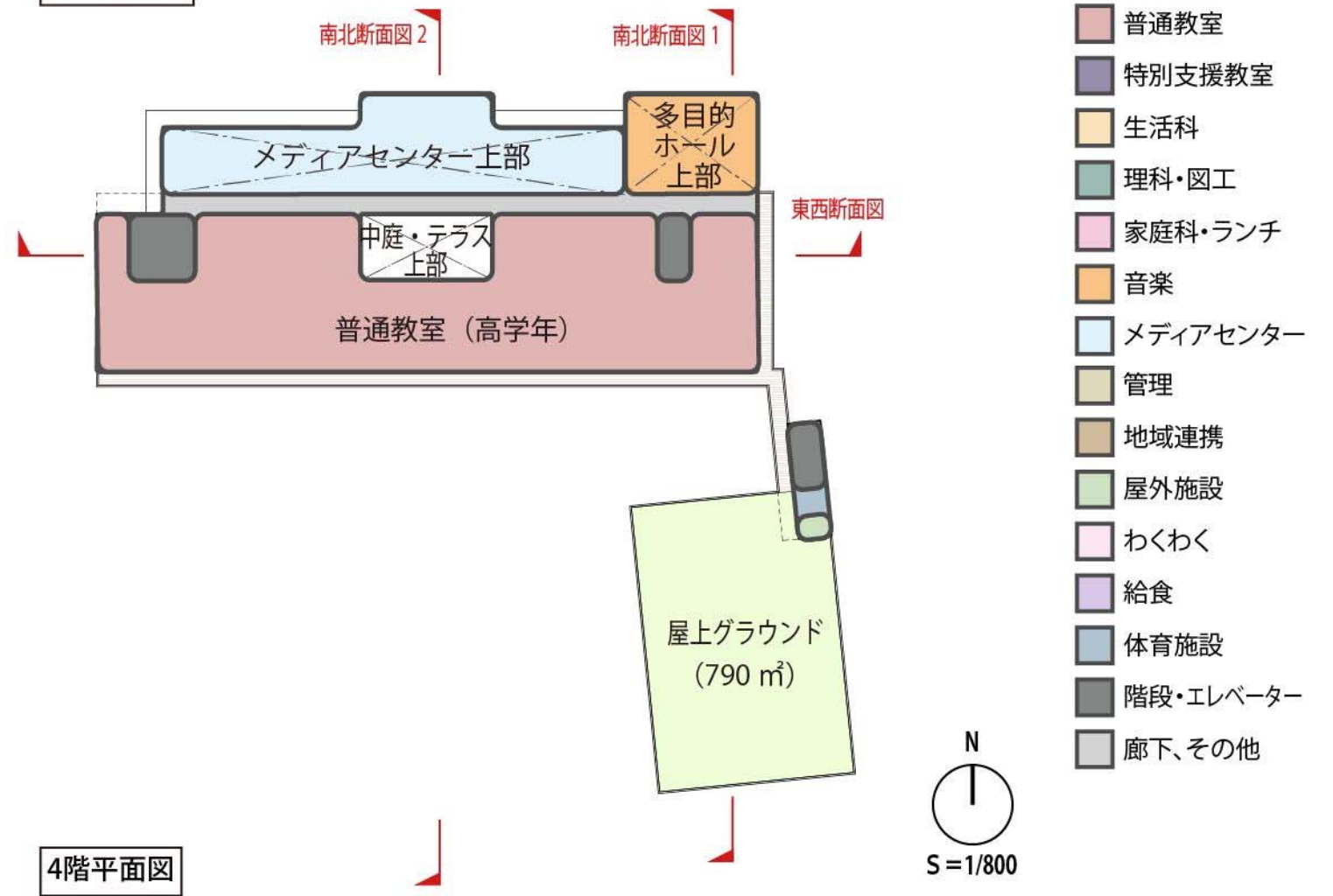
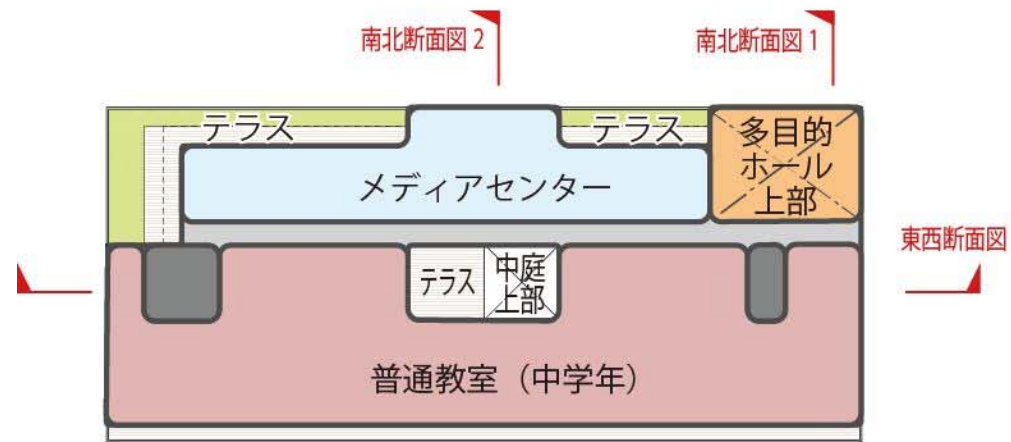
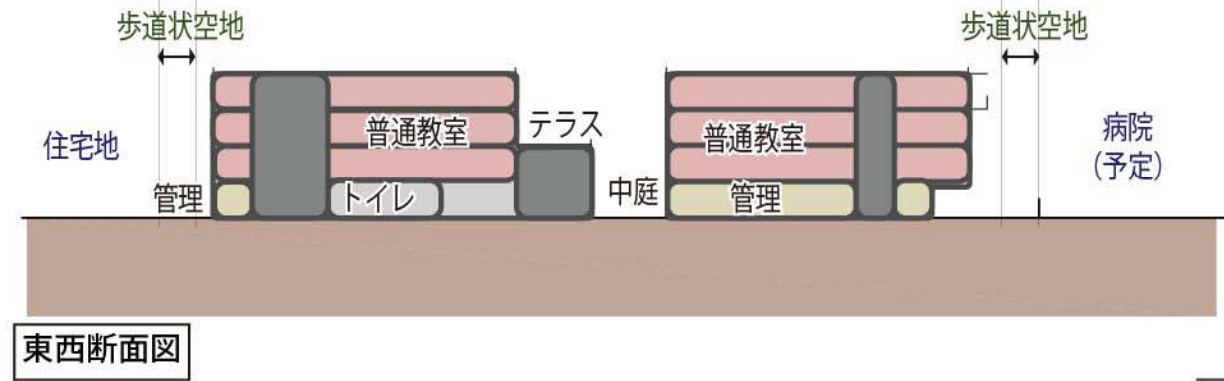
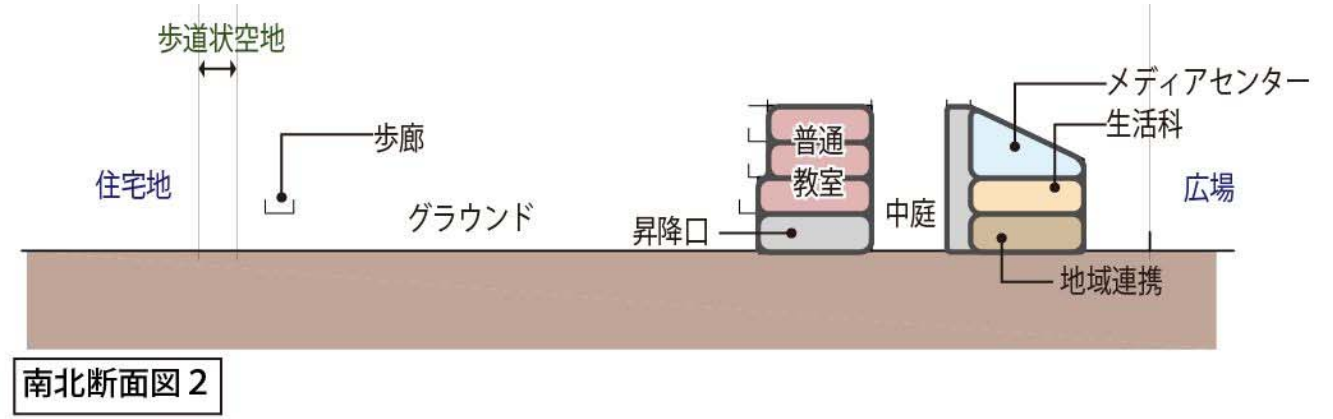
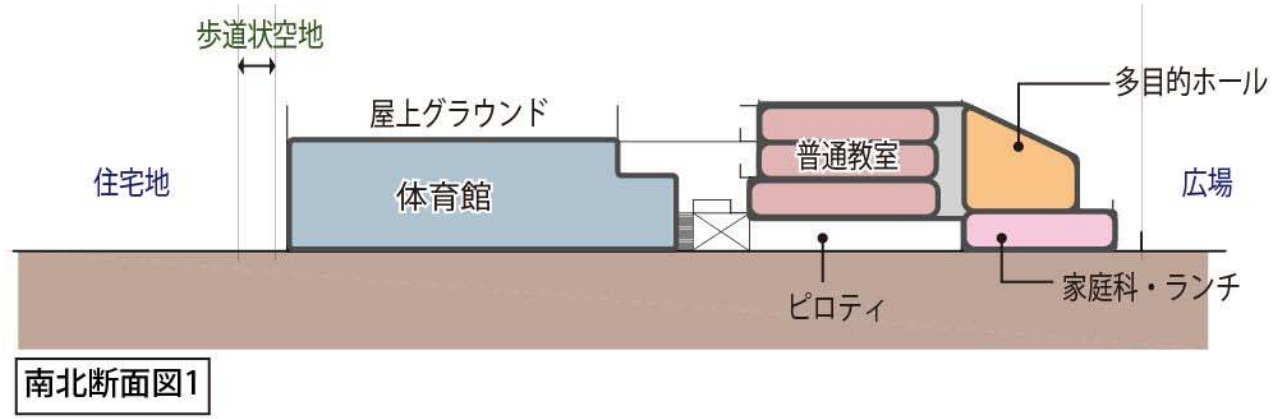


模型写真2



- 普通教室
- 特別支援教室
- 生活科
- 理科・図工
- 家庭科・ランチ
- 音楽
- メディアセンター
- 管理
- 地域連携
- 屋外施設
- わくわく
- 給食
- 体育施設
- 階段・エレベーター
- 廊下、その他





- 普通教室
- 特別支援教室
- 生活科
- 理科・図工
- 家庭科・ランチ
- 音楽
- メディアセンター
- 管理
- 地域連携
- 屋外施設
- わくわく
- 給食
- 体育施設
- 階段・エレベーター
- 廊下、その他

